

ギンナンの樹勢向上対策技術の導入推進

1 対象

J A 愛知西祖父江ぎんなんブランド部会 118 戸

2 背景

稲沢市祖父江町のギンナン栽培では、近年夏季の異常高温や少雨の影響により、樹勢低下による浮き実*の発生や小玉化が問題となっている。

令和2年度にたい肥マルチ等の対策技術が、栽培指針に位置付けられた。令和3年度から5年度にかけて各対策技術のモデル園や実証園で、せん定枝チップや完熟牛ふん堆肥等の有機質資材マルチ、せん定の実施等による連年施用効果を確認してきた。



図1 たい肥マルチの施用

* 殻の中の胚乳が萎れたりその一部が欠けたりする障害果で、産地では「浮き実」と呼ばれる

3 活動の内容

各樹勢向上対策のモデル園で引き続き収穫期に浮き実率と粒重を調査した。

令和6年は7月下旬から8月にかけて降雨間隔が長く、しかも近年まれにみる高温で推移した。その結果一部の園で葉が萎れ落葉する樹や対策技術の効果が確認できない園もあり、葉からの蒸散が著しく増加したためと考えられる。

これまでの4か年にわたるモデル（実証）園の調査結果を目揃え会、せん定講習会、実績報告会等の部会員が集まる機会に、部会員に周知するとともに、個別巡回で対策技術の導入を呼びかけた。各樹勢向上対策のモデル園で引き続き収穫期に浮き実率と粒重を調査した。

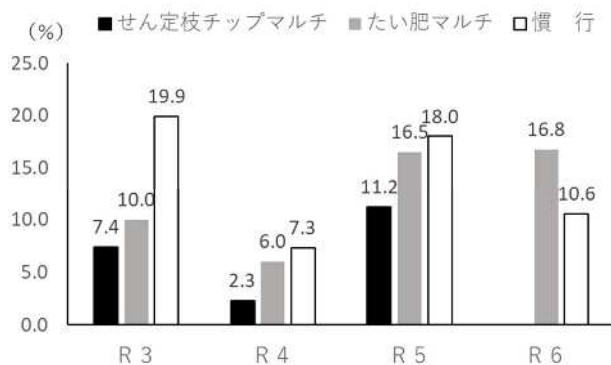


図2 浮き実率調査結果（R3～6）

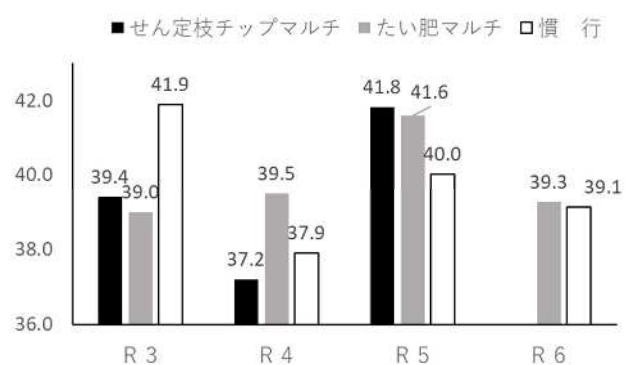


図3 10粒重調査結果（R3～6）

4 活動の成果

令和3年から継続的に樹勢向上対策技術の実証ほ等を設置し、対策技術ごとに効果を取りまとめて栽培指導会等で導入を呼びかけており、部会員の導入意向が高まっている。

6年度6戸が新たに取り組み（草生栽培1戸、たい肥マルチ2戸、せん定枝チップ1戸、せん定2戸）、1戸が次年度の導入意向を示している。

また、2月21日に開催された部会主催の実績報告会で4か年の対策技術のモデル園や実証の調査結果を示し樹勢向上対策技術の有効性を周知した。出荷実績の2L以上比率は着実に増加していることや、部会員からの取組結果の発表もあり、部会員は新たな対策技術の導入意欲が高まった。